

会議の名称	茨木市市民会館跡地活用検討委員会 第5回
開催日時	平成30年2月16日(金) (午前(午後)7時30分開会 (午前(午後)8時10分閉会)
開催場所	市役所南館10階 大会議室
出席者	[委員] 福本雄也、渡辺志穂里、中村裕二、阿部格朗、黒田隆男、 井元真澄、木村光佑、川本由貴、木村正文、久隆浩 【10人】
欠席者	建山和由、福田公教 【2人】
事務局職員	福岡市長、河井副市長、大塚副市長、秋元企画財政部長、 田川市民文化部長、小田市民文化部長、 小西企画財政部副理事兼政策企画課長、 向田政策企画課参事兼市民会館跡地活用グループ長、 庄田文化振興課長、泰田政策企画課行政経営係長、 川嶋政策企画課職員 【11人】
開催形態	公開
議題 (案件)	1 開会 2 茨木市市民会館跡地エリア活用基本構想について答申 3 市長あいさつ 4 委員長あいさつ 5 閉会
配布資料	検討委員会次第 「茨木市市民会館跡地エリア活用基本構想について(答申)」 「茨木市市民会館跡地エリア活用基本構想(案)」
傍聴人	7人

会 議 録

議 事 の 経 過

発 言 者	発 言 内 容
司 会 (小西副理事)	<p>1 開会</p> <p>本日の委員の皆様のご出席状況だが、委員総数 12 人中 10 名の委員が出席しており、委員会規則第 6 条第 2 項の規定により会議は有効に成立している。</p> <p>また、委員の皆様には既にお伝えしているが、パブリックコメントにおける市の考え方について、委員からのご意見を踏まえ、前回の資料の内容から、一部修正を行い公表していることを併せて報告する。</p> <p>それでは、議事の審議に移りたいと思う。委員会規則第 6 条第 1 項の規定により、久委員長に議長をお願いする。</p>
久委員長	<p>ただいまから、第 5 回茨木市市民会館跡地活用検討委員を開催する。</p>
久委員長	<p>2 茨木市市民会館跡地エリア活用基本構想について答申</p> <p>それでは次第のとおり、「茨木市市民会館跡地エリア活用基本構想」について答申を行う。</p> <p>【久委員長から福岡市長に答申書を手交】</p>
久委員長	<p>3 市長あいさつ</p> <p>ただいま、検討委員会の想いを、答申として市長に届けたので、福岡市長からはあいさつをお願いしたい。</p>
福岡市長	<p>夜分にも関わらず、検討委員会の委員の皆様には、ご出席いただき感謝する。昨年 10 月から、非常に熱心な議論をいただいていたと聞いている。先ほど受け取った答申には、委員の皆様のおたくさんの想いが詰まっているものと理解している。尊重し、しっかりと決断していきたいと考えている。</p> <p>私自身、市民会館跡地エリア活用については、1 年半ほど関わってきたが、市長として申しているのは、「心の中心地」という一言だけである。その他の部分については、本検討委員会をはじめ、市民の皆様にご議論いただければ、しっかり良いものができると思っている。</p> <p>ただ、市民会館跡地エリアの活用に関しては、関心を持たれている方、自分の意見を聞いてほしいという人が、非常にたくさんいらっしゃるから、「船頭多くして船山に登る」という言葉が表すようなリスクを抱えていることも認識をしている。しっかり市長として決断すべきところは決断</p>

議 事 の 経 過

発言者	発言内容
久委員長	<p>して、皆さまの意見の真ん中に行くような、丸い話にはならないように気を付けていきたいと思っている。</p> <p>いずれにしても、10月から熱心なご議論をしていただけてきたことに感謝を申し上げますとともに、しっかりと答申を踏まえていくという決意を申し添え、ご挨拶とさせていただきます。</p> <p>4 委員長あいさつ</p> <p>答申にあったように、10月10日に市長から諮問を受け、5回にわたり議論し、委員の皆さまにはたくさんのご意見を賜った。代表して私がまとめさせていただいたが、この答申には、委員の皆さまの様々な想いが詰まっていると思っている。</p> <p>本日の委員会が最終回であり、また、せっかく市長もご出席いただいているので、私も含め、皆さまの想いもお伝えいただければと思う。</p> <p>それでは井元委員から順に、ご挨拶をいただきたいと思う。</p>
井元委員	<p>私自身は福祉の分野から検討委員会に関わらせていただいているので、その立場からの感想と、これからの期待について一言申し上げる。</p> <p>今回、ホール以外に、機能として、憩い・サードプレイス、賑わい・交流、そして、子育て支援というものがある。特に、子育て支援「いばらき版ネウボラ」には、具体的なところはこれからであるが、非常に期待している。先ほど「心の中心地」だと市長がおっしゃったが、子育て支援の中心地になることにも期待しており、この場所がにぎやかになることで、子育てしやすい、子どもを産み育てやすい茨木市、というイメージが実現していけるのではと考える。</p> <p>また、ネウボラとしては、妊婦さんの個別支援というところがあると思うが、サードプレイスとして妊婦さんがたまたま来て、そこに子育て支援の窓口があるので何か相談してみようか、というように、子育て支援や憩いと賑わい、交流とホール機能というものが、すべて有機的に連携できるのが今回の基本構想だと思うので、いい形で実現していくことを期待している。</p>
木村（光佑）委員	<p>この市民会館跡地エリアが、どう発展していくかということは、茨木が将来どうなっていくのか、そのものだと思っている。是非、跡地を中心に、東西南北の広がり、茨木市全体に広がっていくような構想になれば、茨木市はもっと良くなると思う。将来に向けての跡地活用が大事である。</p> <p>以前、スロベニアに滞在しているときに、都市の計画に携わった経験があり、その時は、都市全体で、朝、仕事が始まるのを7時からにして、10</p>

議 事 の 経 過

発言者	発言内容
川本委員	<p>時にコーヒータイム、15時に終了しというように、ディナーまでの豊かな生活設計、時間設計を行ったのだが、非常に好評であった。</p> <p>学校でも、午前、午後、夜間の3つに分けて、夜間でも午前中勉強するのと同じ資格が取れる、また、15時までに終わり、そこから働く人も働く場を設ける、というような設計をした。</p> <p>40年くらい前の話だが、ちょうどスロベニアは茨木市くらいの規模であり、そういうことを思い出した委員会だった。</p> <p>この度、茨木市市民会館跡地活用委員会の委員として関わらせていただいたことが、非常に嬉しかった。市民としてもずっと気になっていた案件で、これから先もずっと茨木市に住んでいきたいという思いからも、どうなっているのか気になっていた。</p> <p>今回、大阪共立という、劇場の専門の会社の社員という立場で、委員に任命していただいているが、私自身はまだまだ経験不足で、私個人のホールの想いをいろいろぶつけてしまい、困惑させてしまったかもしれないが、丁寧に対応いただき感謝している。</p> <p>文化というのは、人間にとって欠かせないものである。</p> <p>ここで、少しその話をさせていただくと、800年前になるが、ローマ帝国の皇帝フリードリヒ2世が、ある赤ちゃんの実験をした。それは、生きるのに必要な「食事」、「ミルクを与える」、「排せつをする」、「お風呂に入らせる」、ということだけをさせ、それ以外の他のスキンシップは全て排除して、育てるという実験をした。その結果、全ての赤ちゃんが、1歳の誕生日を迎えることなく亡くなったという結果になった。</p> <p>このように、人間にとって、愛情や触れ合いというものは、生きる中で大事なものである。人と触れ合う、心を育む、「文化」というものはぜひ無くさないでいただきたいと思う。</p> <p>今回、市民会館跡地エリアに、ホールが建つということで、若い世代を中心に文化に触れる機会を今まで以上に増やしていただくとともに、子育て世代だけではなく、生活困窮者や障害者など、さまざまな、「文化に触れたいのに触れられない」という立場の人たちにも、利用していただけるような、そういう施設に、市民の心を育てていただけるような場所になることを期待している。</p>
木村（正文）委員	<p>30年以上、茨木で仕事をさせていただいているが、市民委員の皆さまの意見や、普段ホールを使われなかった人の意見、具体的に利用していた方の話など、非常に勉強になった。ただ、私としては元市民会館を1年に1回必ず利用していたので、ホールについては思い入れがある。</p>

議 事 の 経 過

発言者	発言内容
福本委員	<p>茨木市というのは、市役所が JR と阪急両駅の真ん中にあり、官公庁、税務署やハローワークも、ちょうどそこを中心とした円の中にある。その中には元茨木川緑地もあり、28 万都市で、このような緑豊かで何かの賑わいがあるという場所は、なかなか無いと思う。皆さまのご意見を踏まえて、市民会館跡地エリアが円の中心であり文化の中心になるよう、この答申を踏まえて、進めていただければと期待している。</p> <p>今回の基本構想は、非常にわくわくさせるもので、市役所の方にはより良いものを作っていただきたいと思っている。</p> <p>ただ、できた施設をどうしていくかは、我々市民が関わっていくところだと思うので、特に、私たち若い世代が中心となり、率先して盛り上げていきたいと思う。</p>
渡辺委員	<p>今回、30 歳代の市民として参加させていただいたことに、お礼申し上げます。</p> <p>私は、茨木で生まれ育ち、そして、子どもを産んで、子育てをしてきた。その中では、PTAなどの地域活動にも参加させてもらい、私自身もこんなふうに大人の人たちに、茨木に育てられてきたんだということを感じていたところである。</p> <p>今回、100 人会議から参加させていただき、また、10 月からはこの委員会にも参加させていただいたが、茨木がどうなっているのかを知ることができたのと同時に、こんなことも知らなかったのか、ということが沢山あった。また、私がこういうところに行っている、という話をすると、関心を持ってくれる友達もたくさんおり、「どうなっているの」、「見てみる」、との声もたくさんいただいた。</p> <p>「次なる茨木」が好きなので、これからも期待したいし、関わっていききたいと思っている。</p>
中村委員	<p>この委員会では、度々否定的な意見を言い大変失礼した。</p> <p>先ほど、市長がおっしゃっていた「心の中心地」ということで、おそらく、これが進んでいくと様々な反応があって、肯定的な方もいれば否定的な意見もでてくると思う。私はこれまでお金の話をしながら、最後にこの話をするのは恐縮なのだが、作る以上は立派なものを作ってほしいと思うし、そこが茨木市民にとって誇りになるものになればいいと思う。</p> <p>既にこの委員会で発言したように、「子どもたちの世代に負担にならない」ということはもちろんであるが、子どもたちが、茨木に住んでいることを誇りに思えるようなものにしてほしいとも思う。</p>

議 事 の 経 過

発 言 者	発 言 内 容
阿部委員	<p>残念ながら茨木の象徴的な建物が、どんどんなくなっているような気がする。立命館大学が昨年できたが、サッポロビールの工場や、松下の工場もなくなるなど、ここにあることで、誇りに思えるようなものがなくなっている気がするので、逆に、他の市の方がこういうものを作ろうとするときに参考になるようなもの、ここを目掛けて人が来る様なものを、是非作ってほしいと思っている。</p> <p>100人会議の流れで、普段会うことのない業界の人から話を聞けばという軽い気持ちで参加したが、思っていた以上に専門的な話もあって、非常に勉強になった。実際の跡地利用はこれからだが、このエリアだけではなく、そこから広がっていくようなまちづくりとしていただきたい。個人的には、東隣の元茨木川緑地にリンクできるような形で広げてほしいと思っている。</p>
黒田委員	<p>市民委員にという話があった時に、なぜ歳をとった私に、と思ったが、参加した100人会議で、とある女性が仰った「市民はこういったことを行政に任せきりにしないでもっと関わるべきだ」という言葉に非常に感銘を受け、そのことを思い出し、市民の一人として委員を引き受けた。</p> <p>そして、検討委員会がはじまり、提示された基本構想（案）では、キーコンセプトが「育てる広場」とされたが、これは、先ほどの女性の言葉、それを完璧に表した、非常に素晴らしいものだと思う。</p> <p>私はエンジニアなので、議論を進める中で、データの取り方や読み方、ロジックの展開で疑問があり、会議の場や会議の場以外で、非常に厳しい事や、失礼なことを言わせていただいたが、それに対して事務局が不足したデータを集めたり、ロジックの展開も納得できるように構築いただいたりして、私の疑問はほとんど解消した。今後、中村委員がおっしゃったような批判的意見が出てきたときにも、対抗できる理論武装ができたのではないかと思う。そういったところで、市民委員の役割を、まがりなりにも果たせたのではないかとも思う。</p> <p>市役所と市民が一体になり、このような素晴らしいコンセプトを実現できるまちとして、さらに発展していくのを楽しみにしている。</p>
久委員長	<p>それでは、私から最後に意見を述べさせていただきたい。今まで委員長という立場で、個人的な発言をする機会があまりなかったのもので、最後に話をしたいと思う。</p> <p>私もいろいろな市役所で、様々な仕事をさせていただいてきたが、やはりこの20年で、行政の仕事の仕方や、行政と市民の関係が大きく変わって</p>

議 事 の 経 過

発言者

発言内容

きていると思う。いわゆる、共に働く「共働」というのが、これからますます重要になってくると思っている。今までは、どちらかという、行政が市民サービスを提供するという観点だったが、このキーコンセプトであるように「育てる」、一緒に働いていろいろなものを作り上げていく時代になっており、そういう意味では、今回の構想の中にある、「育てる」というキーワードは非常に前向きで、これからの世代に沿ったキーコンセプトだと思っている。

先ほど川本委員から、歴史的な文化の話があったが、文化は「culture」、つまり、耕すという意味の「cultivate」から来ており、共に汗をかいて耕していくことで、文化が花開いていけばいいなと思っている。

また、チャールズ・ランドリーという都市計画家が、「創造都市」というような言い方をしている。チャールズ・ランドリーが唱える創造都市というのは、ヨーロッパの都市の再生を分析したものであり、創造都市「Creative city」と発表したものである。

1970年代までは、工業で都市を発展させてきた時代が続いてきたが、その後、ことごとくその工業が衰退し、工業都市が駄目になっていった。

1980年代後半頃から、ヨーロッパのかつて工業都市だったまちが、どうやって再生していったのかというところをチャールズ・ランドリーが分析したところ、そのほとんどが文化芸術を使いながら都市を再生していることに気がつき、文化が持っている創造性やクリエイティビティをうまく都市の再生に繋げていくということで、「創造都市」というキーコンセプトを出したものである。

茨木も、先ほど話があったように、工場がなくなっていっているが、一方で、このような文化を中心に、都市をもう一度まとめあげていくという意味では、チャールズ・ランドリーの提唱する「創造都市」に向かって、非常に大きな、画期的な施設になるのではないかと思います。

ちなみに、「育てる」という意味では、私も茨木市民なので、一緒に育てていく責任があり、第三者的に見るのではなく、市民会館が建て替わった後は、市民として一緒に育てていく責任があると考えている。

さらにもう一つ、委員会の中でも何度も申し上げたが、もうすでに、茨木市民には力があり、その力を結集する拠点でもあると思う。十数年前だが、ある市民の方が「よく行政が市民参加と言うが、茨木は、市民活動への行政参加ではないか」とおっしゃっていた。例えば、皆さまがよくご存知のところと言うと、茨木童子というキャラクターは、JCを中心として、市民側が作ったものである。市役所が先導するというよりも、どちらかという市民がいろいろなものを動かしていくという伝統が、茨木には既にあるのではないかと思います。

議 事 の 経 過

発言者	発言内容
福岡市長	<p>文化の話では、音楽分野では、5月5日の茨木音楽祭が定例化してきているし、茨木アートセンターのメンバーが、いろんなどころで芸術展を開いている。市民がいろいろな形で活動を動かしていくというのが、茨木の特徴だと思っている。そういう市民の力を新しい施設で、再結集させる、そのような役割を担う場所になるのではないかと考えている。</p> <p>また、茨木に来て、美術を中心とした芸術の力が強いと感じた一つの例が、28万人規模の都市に、画材屋があるということである。画材屋というのは、大阪市などの大都市にはあるが、このような中規模の都市に、きちんと画材屋があるというのは、それを使って絵を描く方がいる証拠であり、また、ギャラリーが何か所もあるというところと言うと、とても文化力が強い市であると思う。</p> <p>もともとこのような根っこが茨木にはあるのだから、ぜひ、新しい施設は、未来志向の新しい文化の中心になっていただき、そこからどんどん広がっていくような、そのような中心にしていただければと思う。</p> <p>もう1つ、茨木はもともと城下町から発展しており、中心がはっきりしているのも特徴である。まさしく、このあたりが古くからのまちの中心であり、ここが、次は21世紀型の文化の中心として生まれ変わるというのは、先ほどの創造都市においても、非常によいきっかけになるのではないかと考えるので、私も、一茨木市民として、一緒に育てていければと思う。</p> <p>皆さまから、大変に想いの詰まったご意見を頂戴した。しっかり、受け止めて結論を出していきたいと思う。</p> <p>私自身の想いとしては、「心の中心地」と言っているが、この跡地活用を単なる建て替え問題として終わらせてはいけないと思っている。基本構想案において、「エリア」という表現を使っていたように、まちづくりをどうしていくか、その思いを、この中心地から市全体に広げ、市民の皆様に届くようにしたい。</p> <p>しっかり市長として、舵取りに努めていきたいと思っているので、引き続きどうぞよろしくお願いしたい。</p>
久委員長	<p>これまで議論の中で、私からブレーキをかけさせていただいた点はいくつかあったが、それは、今は基本構想について話し合う段階で、細かい話は次のレベルである計画、そして設計に至るプロセスにおいて行うからである。何故その話を最後に申し上げているのかというと、今まで100人会議から検討委員会まで、いろいろなご意見を頂いたが、これからは、より詳細の設計、例えば部屋の数やホールの規模、広場のデザインなどをどうするか等の検討を進めることになるので、ぜひとも、こういうところ、次</p>

議 事 の 経 過

発言者	発言内容
秋元部長	<p>の計画や設計の段階にも、市民が意見を言えるような場を作っていただければと思う。</p> <p>ただし、市長のご挨拶にもあったが、内容が細かくなればなるほど意見の違いが先鋭化するので、意見を個々に市にぶつけるよりも、市民側みんな調整をはかって、その違う方向を向いている意見を一本化するような仕掛け、仕組みをぜひとも組み上げ、うまく市民側が調整した意見を計画や設計に流し込むような過程を、作っていただければと思う。</p> <p>100人会議からのメンバーは、これまでたくさんの時間をかけて想いを重ねていただいたと思うので、ぜひとも市長に再度お願いしたいのは、この想いの詰まった構想から、良い施設を実現していただければと思う。</p> <p>最後になるが、各委員から様々な立場でご意見を賜ってきたが、これからもいろいろな形で、この構想を実現するために力を貸していただければと思う。</p> <p>5回にわたり、委員会にご協力をいただき感謝申し上げます。</p> <p>それでは、これで市民会館跡地活用検討委員会を終了とさせていただきます。</p> <p>5 閉会</p> <p>これまで、本日を含め、5回にわたり熱心なご議論を、また、あたたかいご意見をいただいて感謝申し上げます。</p> <p>これから、本格的に跡地エリアの事業が動き出し、来年度は基本計画において具体的な施設機能や運営方法など決めていきたいと考えている。「育てる広場」の実現についても、「育てる」という言葉をかみしめつつ、市民参加やワークショップなど、いろいろなことを進めながら取り組んでいきたいと思っているので、引き続き委員の皆さまにおかれては、ご指導、ご協力をお願いしたい。</p> <p>それではこれをもって終了させていただきます。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>